

第4回 幼・保・小合同研修会だより

日時 令和5年9月19日(火) 午後3時～午後4時40分

場所 ニコニコこども館5階 ふれあい学級 (オンラインとのハイブリッド研修)

教育講演

幼児期の教育と小学校教育をつなぐ幼保小連携の在り方

—「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等を踏まえて—

國學院大學人間開発学部初等教育学科 田村 学 氏



講師の 田村 学 先生は、文部科学省初等中等教育局視学委員、中央教育研究所評議員等を歴任。現在の学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、授業改善として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れること、さらに、学習者主体の視点でカリキュラムをデザインすることが求められる資質・能力の育成に深く関わっていることを、実践研究を通して、明らかにしてこられました。今回は、幼児期の教育と小学校教育をつなぐ幼保小連携の在り方について、「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における議論等をもとに、どのような点に留意し進めていけばよいのか、実践のヒントを教えてくださいました。

※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校関係者等 82名(内オンライン研修46名)

【講演の主な内容】

- 子供の学ぶ姿を見取る
- 主体的・対話的で深い学び
- 体験の価値
- 言葉の価値
- 知識がつながる「深い学び」
- 幼保小連携・接続の必要性・重要性
- 架け橋プログラム



■体験の価値・言葉の価値

・幼児期と小学校での体験活動においては、子どもが主体的に活動を進めることにより成長していく。そして、子どもが経験したことを自分の言葉で誰かに伝えることで、深い学びを得ることができる。そのためにも、保育者や教師が子ども一人一人の主体的な活動を充実させるとともに、子どもの姿を見取り言葉につなげていくことが大切である。

■幼保小連携・接続の必要性・重要性

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」「(架け橋期に)期待する子供像」「(架け橋期に育成を目指す資質・能力(3つの柱)」はつながっており、そのつながりを意識し幼保小で共有することが大切である。

・教育委員会、幼稚園、保育園、小学校がカリキュラムを共有し育成を進めていくことで、子どものよりよい成長につながる。

【アンケートから～参加者の声～】

○子ども達は経験の中で様々な事を学んだり、自分で考えたりする中で成長していくことを改めて感じました。

また、経験するだけでなく、そのことを自分の言葉で誰かに伝えることで、より認識が深まるということが分かりました。(幼稚園教諭)

○幼児期の教育が、小、中、高の教育へのモデルであること、基礎になっていることを学び、改めて子どもたちが主体的に体験して言葉にしていく保育を取り入れていきたいと思いました。(保育士)